

## 我が家の養鶏日誌 ニワトリにコテツも胸をときめかせ

お正月休みの最終日、日頃からお世話になっている次長の家に電話をすると、「これから鶏を買いに行くの。」と言うことだったので、かねてから卵をとるために鶏を飼いたいと思っていた私は、思わず「私も一緒に行ってください。」とお願いして農業省の研究所まで行ったのでした。そこは日曜日のみ農家にヒヨコを販売しており、その日もヒヨコの販売日でした。本来ならヒヨコしか売らないところを、次長が言って特別に雌の成鶏を売っていただきました。値段は60㍓/kgで1羽120㍓ - (約240円) くらいでした。生後13ヶ月と言うことだったので、まだまだ卵を産むだろうと言うことで2羽買って来ました。この日から我が家の養鶏日記が始まったのです。

まず、鶏小屋の整備。小屋はもともと丸太置き場があり、そこを大家の許可を取って鶏を飼うべく空にしていたので、中にレンガとベニヤ板で棚を作り、棚の下を卵を産むスペースにしました。コンクリ打ちの床では冷えるので粉がらを買ってきて床に敷き、留まり木を置き、鶏の住環境を整えました。

次に餌。鶏を買ってきた日に飼料を買いに行くと、そこは50kg単位でしか売ってくれないため、50kgを600㍓ - (約1200円) で買ってきました。そして色々な人の意見を参考に野菜くずや青菜を細かくしたものを飼料に混ぜてあげるようにしました。何でも、緑の野菜を食べていると黄身が濃い黄色になり、ビタミンも含まれるので良いそうです。しかし、後日ネパールの飼料はみな抗生物質が入っていると聞き、私が妊娠中ということもあり、なるべく飼料を少なくして野菜、ぬかを混ぜてあげ食べさせることにしました。

こうして1週間経ち、2週間経ち、毎日毎日卵を産まないかなと待っていたのですが、いっこうに産む気配がありません。何人かのネパール人に聞くと13ヶ月ではもう卵は産まないと言われてしまいました。日本では2才過ぎまで産むのにネパールでは人間同様早く年をとってしまうのでしょうか？

結局、シータの弟が養鶏をやっているため彼に新しい鶏を探してきてもらうことにしました。彼いわく成鶏はなかなか売ってくれないとのことでしたが、村で飼われていた鶏、ネパリー種(在来種)の雄雌1羽ずつ、産卵種の雌2羽を探してくれました。ネパリー種の方が価値が高らしく1羽300㍓ - (約600円)、産卵種は1羽225㍓ - (約450円) でした。なんでもネパリー種は地鶏の様に放し飼いにされて草や虫などを食べているためビタミンがあり栄養価が高いためだそうです。卵も普通は4㍓ - ですがネパリー種では12㍓ - はするのです。

こうして合計6羽の鶏が集まり、試行錯誤しながら少しずつ環境整備を続けました。小屋を整え、運動と日光浴ができるように小屋の周りに金網を張りめぐらせたのです。今では毎朝1~2時間小屋から出し、日光浴や砂浴びをしながら青菜をついばむようにさせています。今のところ3羽の鶏が交替で1日1個のペースで卵を産んでいます。次の目標は鶏に卵を抱かせてヒヨコを孵化させることです。(美澄)

鶏にいちばん喜んだのはシータで、毎日眼を輝かせて餌を与えています。格好の獲物を得たコテツもエキサイト気味ですが、鶏を小屋から放っている間コテツは鎖に繋がれるため、毎日情けない鳴き声をあげています。(浩司)

## 不浄なるは汝が左手 嗚呼、一線を越えてしまった私

古い話で恐縮だが、12月下旬のピラトナガル出張は思い出しても最悪の体調だった。出発直前から腹の調子がおかしくなり、翌日朝には滝のような便が出た。ネパール赴任以来数カ月に1回は経験しているこの種の下痢は、腰痛も襲って来るから厄介だ。車の出発時刻は迫り、私はやむを得ず愛用の整腸剤「ミヤリサンA」を飲んでバジェロに乗り込んだ。

モラン郡教育事務所の日程は無難にこなしたが、次のピラトナガル市内の小学校に着いた時にはお腹がキリキリ痛み始め、我慢ができなくなった。山の中ならともかく、ここはネパール第3の都市、周りの連中は異邦人の一挙手一投足に注目している。野グソなどできるわけがない。私は校長に言った。「チャルピカハンチャ?(トイレはどこにあるの)」

ピウン(雑用係)に案内してもらい、トイレに入った。そしてズボンを下ろしてしゃがみ込んだ時に気が付いた。紙を持って来なかった!もう遅い、便は滝のように流れ落ちている。そして目の前には水道の蛇口と小さなブリキのバケツが・・・そう、ネパール人は排泄の後、左手でお尻を拭くのである。翻って私は自分の左手を見た。(できるか、この俺に?) 私は自問自答した。私は左利きなので、意外と左手を使うのだ。でも、みんな私の戻って来るのを待っている。

「美澄、ゴメン!」そうつぶやくと、私は左手薬指の結婚指輪を外したのだった。

ネパールのトイレは昔の日本のしゃがむタイプに似ている。トイレには水道蛇口とバケツ、それにプラスチックの水さしが付いている。用をたすと、ネパール人は左手を水で濡らして尻を拭き、水さしで汲んだ水で排泄物を流すのだ。断っておくが、我が家はちゃんとした腰掛け水洗式なのでご安心を。でも、村にホームステイすると、トイレさえもない家が殆どだ。各家で用をたす場所がだいたい決まっていて、皆水差しを片手に藪の中に消えてゆく。

ネパール人になってしまった気分は?少し濡れたパンツが気持ち悪かった!!しかし、その後私はレタン村のシャンティバグワティ小学校でも同じ経験をした。我が国の無償資金協力で建てられたトイレの使い心地を見るために。

聞くとところによると、美澄は10月のゴレバニ周遊トレッキングの時に既に経験していたらしい。(浩司)

## 私の仕事紹介 (その11) プレスツアー1996

今年度もネパールのマスコミを招いてプレスツアーを企画した。今年は昨年度の反省も踏まえ、招聘規模を小さくして取材対象を絞り、よりアップトゥデートなイベントでカトマンズ盆地から外に出るものに合わせて開催することにした。

対象となったのは、1月に最終報告書案をネパール政府に提出した「中南部地域激甚被災地区防災計画調査」。1993年7月の集中豪雨で土石流災害に見舞われたマクワンプル郡フェディガオン村等をモデル地区として、村落振興事業を展開する過程で地区防災システムの整備を図ろうとするもので、報告書では構造物建設は政府、上流の植林や溪間工事、現金収入向上事業等の総合村落開発は住民自らが担うものと位置づけられている。勿論、住民の事業計画立案、実施、維持管理能力を向上させるため、援助機関やNGOの関与も期待されている。従って、マスコミ報道を通じて、本計画が他の援助団体の興味を引くことや、ネパール国民が計画の基本的考え方を理解し、自らが地域住民の組織化を図るようになることが期待される。しかも、今回日本から来る調査団は現地住民啓発のためのセミナーを開催予定だったし、本来の担当の長所員が休暇中で私が代わりに本件を担当しており、ツアーを企画するのに丁度よい案件だった。

1月15日はブリーフィングセッションとして、調査団の団員同席の下、事務所において私が概要説明を行い、16、17日にかけてカトマンズから車で6時間はかかるフェディガオン村での住民啓発セミナー取材に行ってもらった。残念ながら私自身は仕事が忙しくて引率はアチャリア所員とネウパネ所員に任せましたが、その後の記事を見ると概ねこちらの意図は伝わったように思う。こうした試みだったら、年間に数回は実施してもいいかもしれない。

ところで今回の調査団でお世話になった日本工営の西野さんの奥様は私の大学の1年先輩で、美澄も懇意にしていた。1993年の大災害の頃、丁度ご夫妻でマクワンプル郡ニフワタル村に駐在されており、その当時のネパールでの生活を綴った本を昨年出版されて随分話題になった。ネパールにご興味のある方は是非お読み下さい。(浩司)

◆西野孝枝「ネパールからナマステ！」筑摩書房、1996年3月、1500円

## ポカラに死す 門田毅専門家のご逝去

1月16日(木)、私が担当している村落振興・森林保全計画プロジェクトの門田毅専門家が、車を運転中ポカラ近郊の深さ50mの谷に転落され、お亡くなりになりました。翌日には荼毘に付され、20日には日本から到着されたご遺族も交えて本葬儀がポカラで執り行われました。私も17日にはポカラに飛び、葬儀のお手伝いをしてきました。

門田さんは、学生時代からネパールに何度も来られ、1991年の林業普及計画プロジェクト開始よりJICAの長期専門家としてポカラに常駐されておりました。奥様もネパールの方で、ポカラにおけるJICA関係者の常宿Hotel Monalisaオーナーの義弟として、ホテルに住んでおられました。私達も、Hotel Monalisaに泊まった時は、掘りコタツに入ってトゥクチェ村のブランデーを飲みながら門田さんにネパールの文化社会の話聞くのがとても楽しみでした。ポカラを、そしてネパールをこよなく愛されていた日本人のお一人でしょう。プロジェクトもこれからという時に残念で仕方ありません。

でも、ヒマラヤの山々を臨むこのポカラの地で土に還られるのも本望だったのではないのでしょうか。門田さんのご冥福を心からお祈り申し上げたいと思います。(浩司)

## 子犬をびびらす巨大怪獣 コテツは今でも我が家の人気者

昨年秋、次長宅で子犬が生まれた時、1匹いただく予定でいました。いちばん元気なクッピーという子犬をいただくつもりで、何度か我が家に連れて来てコテツに慣らそうと試みたのですが、体重25kgの巨大怪獣を見てクッピーは怯えてお漏らしを繰り返し、結局諦めることになってしまいました。コテツも性格の悪い犬ではないのですが、愛嬌振りまくつもりで噛んでも子犬には致命傷になってしまいます。コテツは私達が食事を始めるとおもむろに窓の外に現れ、切ない眼差しで私達を見つめるため、私達が根負けして食べ物を与えてしまいます。最近さらに太ったような気がします。このところカトマンズは朝の冷え込みが厳しく、玄関を開けるとコテツはブルブル震えていることがあります。こんな姿を見ているとコテツも可愛く思えます。当面仲間を連れて来ることは諦めましたが、コテツは我が家の人気を独り占めです。(美澄)

## 編集後記

★最近、上智大学OBだと名乗って接触してくる人が時々います。OB会誌「ソフィアンズ便り」に「ネパールソフィア会発足を願って」との記事が載ったからです。昨年8月に帰任された倉辻専門家の奥様が書かれたもので、現在ネパールには上智出身者が4人おり、代表として私の名前と事務所の住所・電話番号が記されています。事前連絡を日本からいただくのならともかく、中には空港に着くなりいきなり電話して来て「今空港に着きましたから。」なんて図々しいOGもいます(空港出迎えに来いとでも言うつもり?)。世界各地にあるソフィア会はOBの来訪に対する便宜供与のための組織ではないと思いますが、因みにネパール在住のOBは全てJICA関係者。OB会など作らずとも頻りに会っています。(浩司)

★鶏を飼い始めて野菜くずの量が減りました。今までは野菜くずはバケツに貯めて堆肥にして畑に返していたのを、鶏が食べる物は細かくしてあげているようにしたためです。そして鶏の糞は肥料になるので、床に敷いている初穀と一緒に畑に混ぜ肥料にします。このように鶏を飼うメリットは卵だけではなくゴミのリサイクルでもあったのです。これも土のある生活をしているからこそ出来るのだと思いました。土のある生活はいいですね。定期検診も今まで超音波診断で赤ちゃんの姿を確信するのみだったのですが、今月はその他に血液と尿検査、お医者様の診断をして特に異常がないことを確認してほっとしています。赤ちゃんがどうやら男の子らしいことも判り、浩司さんはとても喜んでます。(美澄)